

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	農を職と食に！
資金分配団体名:	一般財団法人リープ共創基金
実行団体名:	特定非営利活動法人農スクール
実施時期:	2020年10月～2022年1月
事業対象地域:	神奈川県
事業対象者:	新型コロナウイルス感染拡大の影響で仕事や外出機会が減ってしまった方で、農業に興味がある若者（学生を含む）

Version 3.3

日付： 2022年2月12日

I. 事業概要

事業実施概要	当団体の就労支援プログラムは、首都圏でありながら、田舎の様相を残した藤沢の「農地」を舞台に提供していく。プログラム期間中、当団体でのスキルトレーニングに加え、地域の農家・農業法人に Outreach、農作業をしながら、経営・営業・販売などに関わる機会なども創出していくとともに、地域の課題の発掘を目指す。なぜ、農業なのかというと、「自然に囲まれた畑で、虫や草などたくさんの生き物に触れながら、みんなで汗を流して野菜を育てる」というシンプルな農作業を活用したプログラムが、生活リズムを整え、心の健康や体力を作ると考えているからである。また、当団体では、パソコンを使ってパンフレットを作ったり、データ分析をする機会や、農作物の販売先、地域住民との接する機会なども多くあるため、パソコンでの業務や新たな社会資源とのつながりなどのスキルトレーニングが可能となる。農業という産業だけにとどまらず、それ以外の職業、職種に関しても、募集が来ればいつでも働けるように、技術的、身体的、精神的な基礎力を保つことを目的とする。
--------	---

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	当初、想定をしていた目標とする状態は、地域の農家・農業法人との交流の中でインターンからそのまま就職に至る流れを作る事であった。農作業などを行う中で、失業してから次の職までの期間の体力を落とさない、向上させるという点においては成功を収めているが、農業法人への就職という点においては、難しさを感じた。法人が働く上で求められることと、務めるものが提供できる労働価値との乖離があり、分かりやすく作業スピードやスピードを求める意識に表れた。 また、参加者の中には農業に「スローライフ」のイメージを持つ方もおり、「楽に行き給与ももらえる」といった認識で、農業での仕事へ興味を持たない中での参加となり、現実とのギャップにすぐに辞められる方もいた。 農家・農業法人へのインターンでの作業は、全体の中での一部の作業の為、何のためにやっているか分からないことがやる気にならない理由の一つと考えた。そこで作物を調べる時間や、農スクールの畑の一角を使い自分たちで種まきから収穫まで自主的に育てるものを決め継続して栽培に関わる時間を作った。そのことで初め興味を持ってないものでも農業に興味を持って取り組める状況が作られた。
助成事業実施を通じた団体の成長に関する振り返り	これまで当団体は小さく、採用活動などを手広く行ったことはなかった。また一緒に働くメンバーも、少人数で良く見知った仲が多かった。今回の事業で、色々な人の面接を行い、実際に雇い、決められた期間一緒に仕事を行うことで、組織として採用能力や見知った仲ではない者同士が働ける形を作る組織作りの能力が鍛えられた。そしてそれは、これまで行ってきた活動である農業組織への就労支援において、組織にはどのような人が求められるのか、就労支援対象者がどういったことを目指すと良いのか、といった学びにもつながった。

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
ニート・引きこもり	就業困難	職を失うか減らした若者に対し、藤沢地域の農業組織を受入れ企業として、インターンを提供する	事業参加者数、事業実施時間数、地域受入企業数	事業参加者数・事業実施時間数8人×週20時間×24週、週30時間×12週、地域受入企業数10社	事業参加者数・事業実施時間数11人(3818.5時間)、地域受入企業数8社	途中生活の中で足の調子が悪くなった人が出てから、外での農作業が困難になり、インターンシップ先が限られたことになった。
ニート・引きこもり	就業困難	報酬を支給する	支払い金額	支払い金額480万円	4,262,965円（2月12日時点）	採用時に決めた労働時間を守ることが困難な人も多く（急な欠勤などによる労働時間減など）、雇用する人数・時間の調整が難しかった。
ニート・引きこもり	就業困難	事業参加者が農業やその周辺のスキルを習得する	農業スキルを習得した人数	農業スキルを習得した人数10名	農業スキルを習得した人数10名	同じ農業へ取り組むにせよ、農業への関心などによって取り組み方に差が出た。
ニート・引きこもり	就業困難	事業参加者が報酬を得ることで、生活基盤（衣食住）が安定する	生活基盤が安定した人数	生活基盤が安定した人数7名	生活基盤が安定した人数11名	職を失い収入がなかった状態から一定の収入を得られるようになり、生活が成り立つようになった。
ニート・引きこもり	就業困難	事業参加者が職を得ることができる	職を得た人数	職を得た人数7名	職を得た人数7名	インターン先の農業組織への就職につながった。インターンでお互い顔を合わせていたことが雇う側雇われる側双方にとって安心して採用（就職）することにつながったと考える。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	ウィズコロナ、アフターコロナの状況下の新しい就労の形として、生活の中に農業を取り入れた地方での生き方のモデルを作る。自給的な農業とテレワークを含む都市での仕事を組み合わせ生活する形、地方の農業法人に就職し賃金を得て生活する形、都市集約型の働き方がコロナによって難しくなったあとの働き方、生き方の足掛かりを作る。
考察等	この事業の中で人を雇い実際に一緒に働き、その人がどのような人かを観察した上で地域の農家の元で働くようになったこと。また、地域の農家さんとはそれ以降も顔を合わせることもあるので、勤めた後の様子を聞くこともできたこと。長期的な関わりを持ち、一人ひとりを働くことについての経過を観察できたことで、就労サポートのノウハウが貯められた。 現状の進捗としては、就職するところまでのサポート体制が強くなったところだと位置づけている。今後、生活の中に農業を取り入れた地方での生き方のモデルを作ることを考える際、当事者にとって就職することがゴールではなく、就職してからの方が長いため、今後も長期で関わっていくことが大事である。 就職してから勤務年数が長くなれば、組織の中での役割が変わり、必要な能力も変わってくるだろう。例えば、「アルバイトで就職をしたが、今後正社員になるには別の能力が必要だ」とこの事業の中で雇ってくださった農業法人の代表からそういった課題を聞かされることもあった。就職した人の定着率の改善や、組織の中での成長のサポートを行うことが今後の課題である。

V. 活動

活動	進捗	概要
農作業から販売までスキルトレーニング	ほぼ計画通り	11月ごろまで順調に行っていたが、生活で足を痛めてしまったものがあり、パソコンのスキルトレーニングメインに
地域の農家・農業組織へ研修	ほぼ計画通り	11月ごろまで順調に行っていたが、生活で足を痛めてしまったものがあり、パソコンのスキルトレーニングメインに
パソコンのスキルトレーニング	計画通り	ワード、エクセル、パワーポイントの操作を訓練した

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	この事業を通じ農業法人へ就職した者がその組織で一生懸命に働いたことにより、その農業法人の代表から相談を持ちかけられるようになった。
---------------------	---

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	新型コロナウイルス感染拡大によって2020年時点では様々な分野で雇用が縮小していたが、現在多少持ち直してきた。コロナを理由に退職した当事者の方にとって、就職先の選択肢が出てきた。今回の事業で採用する方の中には、初めから農業に関心を持っていた方もいれば、そうではなく他に選択肢がなかったからという方もおり、農業以外の業界に就職を目指し、そちらに就職が決まるということもあった。それにより、今後弊社に集まってくる人は初めから農業への関心を持った方が増えてくると思う。 また、今回の事業で農家・農業法人に就職した人はしっかり働くという評判がよく、近隣地域では農学校の薦める人なら受け入れるといった環境になってきた。しかし、逆に言うと弊法人の薦めた人が就職した組織で問題を起こすとそういった信頼はすぐなくなるため、より慎重にマッチングを考えなければならない。 今後は、初めから農業に関心を持った方を対象に活動を行っていくが、就職してから当事者サポートにより力を入れて行おうかと考えている。
-----------	--

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
認定NPO法人自立生活サポートセンター・もやい	もやい農業部への参加 → 活動を記事にするなど記事作成のスキルトレーニングなどになった
ホームスクーリングで輝く みらいタウン プロジェクト	不登校の児童・その親のサポートを行う団体のサポート → 農スクールで行えなかったパソコンのスキルトレーニングなどになった
近隣農業法人3社	研修受け入れ → 4人それぞれでアルバイトが決定

IX. インプット ※事業完了月の経費精算書の金額を入力ください。

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	4,364,400	3,706,225	84.9%
	管理的経費	412,500	386,100	93.6%
	雇用関連費	4,804,992	4,262,965	88.7%
合計		9,581,892	8,355,290	87.2%
補足説明		上記実績額は2月12日時点の数字 報告書提出後、2月25日までに給与支払い、12・1月分の税理士社労士報酬支払予定		

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	下記の講義・イベントで告知。 令和3年度官僚幹部候補育成課程中央研修（係長級） ICC KYOTO 2021 ソーシャルグッドカタバルト 下野六太農林水産大臣政務官 WEB意見交換会での広報 埼玉農業大学校での講義
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	なし
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	なし
4.報告書等	なし

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	完了	
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	はい	
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	はい	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査	
	<input type="checkbox"/> 内部監査	
	<input type="checkbox"/> 実施予定はない	
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	